

RUBeC 演習を終えて

青 木 啓 悟

Keigo AOKI

機械システム工学専攻修士課程 1年

1. はじめに

2023年8月20日から9月4日までの期間、龍谷大学の留学プログラムの一つである「RUBeC 演習 I」に参加した。RUBeC 演習 I では、アメリカ合衆国カリフォルニア州にある Ryukoku University Berkely Center (RUBeC) にて行われた RUBeC 演習に参加した。活動内容としては、2週間の期間で文法、テクニカルライティング、プレゼンテーションのスキルを学習した。

2. 参加目的

私がこのプログラムに参加した理由は、将来的に海外での仕事を視野に入れているため、国際的な視野を広げ、異なる文化やビジネス環境に適応できる力を身に付け自分自身を発展させることができる機会を得られると考えたからである。また、一般家庭でのホームステイを通じて、アメリカの文化や言語を実践的に学び、対人スキルや柔軟性を向上させたという思いから参加した。

3. 授業内容

3.1 グラマー

前半の1週間は主に文法に焦点を当てた学習に取り組んだ。この期間中、私たちは日常的な英会話スキル向上のため、外国人のクラスメートと共に英語のみを使用して授業を受けた。この環境は、英語のリスニングとスピーキングのスキルを向上させるのに非常に役に立った。また、知らない英単語を別の英語で説明されることに対する理解する能力が向上した。

3.2 テクニカルライティング

この授業では、予め英語で準備した自分の研究のアブストラクトを持ち寄り、先生の添削や文法の授業を通じて正確な文法や適切な表現に修正していった。このプロセスによって、冠詞や単数形と複数形、前置詞、接続詞などの適切な使い分け方を理解した。また、自分の研究をより適切に表現できるスキルを向上させた。

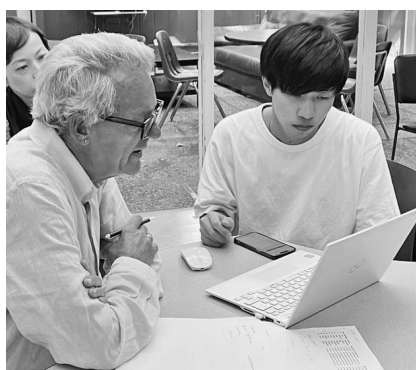


図1 添削の様子

3.3 プレゼンテーション

プレゼンテーションの授業では、自身の研究内容を英語で作成したパワーポイントのプレゼンテーションを通じて、英語の発音、トランジションフレーズ（繋ぎの言葉）、適切なジェスチャーの使用、アイコンタクトなど、プレゼンテーションにおける重要なスキルを習得した。特に印象深かったのは、プレゼンテーションの冒頭にジョークを入れることが、聴衆の関心を引きやすくするために重要ということである。さらに、話し言葉と書き言葉の適切な表現にはそれぞれ違いがあることを理解した。

発音の練習は、リンキングなどの要素に意識を向けつつ、先生の発音にできるだけ近づけるように何度も声に出して反復した。発表本番では、ほとんど明瞭に聞き取ってもらえるレベルまでスムーズに発表することができた。しかし、できるだけスムーズに発音できた上で、すべてを暗記して発表できたら最高だったと感じた。この経験を生かして、初めて

見る文章でも正しい発音、リンキングで読めるよう練習を続けていこうと思う。

この授業で学んだことは、日本語のプレゼンテーションにも共通する部分が多いので、今後は習ったことに注意しつつ発表できるよう心掛けていこうと思う。

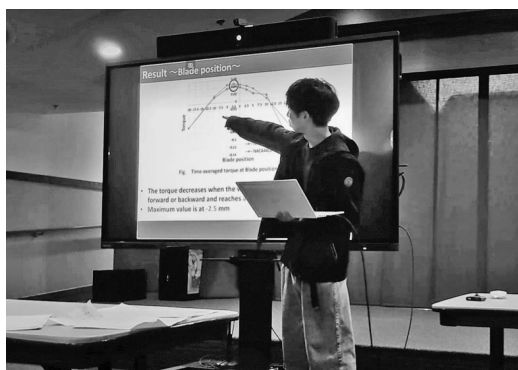


図2 プレゼンテーションの様子

4. カリフォルニア大学訪問

カリフォルニア大学バークレー校 (UC Berkeley) のキャンパス見学を行った。私が訪れたのは新歓期間で、キャンパスには多くの学生が集まり、活気にあふれていた。見学中、大学に在籍する日本人学生に出会った。しかし、彼は日本語より英語でのコミュニケーションを好んでおり、途中から英語で会話することになった。その瞬間、私は英語のスキルに圧倒されたが、同時に国際的な環境で学ぶことの重要性を感じた。この訪問は、新しい視野を広げ、国際的な教育環境を体験する素晴らしい機会となった。

5. ホームステイ先での生活

ホームステイ先での生活は、これまで英語を学んできた私にとって一種の試練だった。文法や語彙は徐々に理解できるようになったが、話すことは非常に難しいものだった。特に、神戸 (Kobe) とコロ

ナ (COVID) のように、似たような発音の単語を聞き取り間違えることが多く、会話がかみ合わなくなる瞬間が多かったことを覚えている。

しかし、私のホストファミリーは優しく、この言語の壁を打破する手助けをしてくれた。夕食の時間には熱心に話しかけてくれ、私の英語スキルを向上させるのに大いに役立った。

この経験を通じて、私は英語のリスニングとスピーキングスキルを向上させる重要性を学んだ。言語の壁があっても、コミュニケーションと理解が可能であることを体験し、このなる文化との交流が自己成長につながることを実感した。これからも努力し、異文化交流を大切にしたいと思う。

6. まとめ

今回のアメリカへの短期留学は、2週間という短い期間ではあったが非常に素晴らしい経験となった。ホームステイを通じて、地元の文化や生活に触れ、温かいホストファミリーとの交流を楽しむことができた。異なる国の仲間と共に授業を受け、新たな視点を広げる機会を持つことができた。カリフォルニア大学を訪問する機会も得て、世界的に有名な大学の雰囲気に触れ、そのキャンパスの魅力を堪能した。英語でのプレゼンテーションを通じて、自信をもってコミュニケーション能力を向上させることができた。

渡米直前には、授業やホームステイでの人間関係に対する不安が楽しみを上回っていたが、実際に異なる言語、文化、環境でも適応できることを体感した。これらの経験は、今後の自分にとって非常に大きな糧となるだろう。

今回の経験により、海外での滞在や異文化とのコミュニケーションに対する抵抗感が大幅に軽減した。今後、仕事などで国際的な視野を広げていく意欲が一段と高まった。